



ホーム ディレクトリの管理

ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

目次

ホーム ディレクトリの管理	1
ONTAP SMB サーバ上で動的ホーム ディレクトリを有効にする方法について学習します。	1
ホーム ディレクトリ共有	2
ONTAP SMB ホームディレクトリ共有を追加する	2
ホーム ディレクトリ共有に固有のONTAP SMBユーザ名要件について説明します	4
アップグレード後に静的 ONTAP SMB ホームディレクトリ共有名がどうなるかについて説明します。	4
ONTAP SMBホームディレクトリの検索パスを追加する	5
%wおよび%d変数を使用してONTAP SMBホーム ディレクトリ構成を作成します	6
%u変数を使用してONTAP SMBホームディレクトリを構成する	8
追加のONTAP SMBホームディレクトリ構成について学習します	12
SMB検索パスを管理するためのONTAPコマンド	12
ONTAP SMB ユーザのホーム ディレクトリ パスに関する情報を表示します	13
ONTAP SMBユーザ ホーム ディレクトリへのアクセスを管理する	13

ホーム ディレクトリの管理

ONTAP SMB サーバ上で動的ホーム ディレクトリを有効にする方法について学習します。

ONTAPホーム ディレクトリを使用すると、接続するユーザと一連の変数に基づいて異なるディレクトリにマッピングするSMB共有を設定できます。ユーザごとに個別の共有を作成する代わりに、いくつかのホーム ディレクトリ パラメータを使用して1つの共有を設定し、エントリ ポイント（共有）とホーム ディレクトリ（SVM上のディレクトリ）間のユーザの関係を定義できます。

ゲスト ユーザーとしてログインしているユーザーにはホーム ディレクトリ パスがないため、他のユーザーのホーム ディレクトリ パスにアクセスできません。ユーザーがディレクトリにマッピングされる方法は、以下の4つの変数によって決定されます：

- 共有名

これは、ユーザーが接続する共有の名前です。この共有のホーム ディレクトリ プロパティを設定する必要があります。

共有名には次の動的な名前を使用できます：

- %w (ユーザーの Windows ユーザー名)
- %d (ユーザーの Windows ドメイン名)
- %u (ユーザーにマッピングされたUNIXユーザー名) 共有名をすべてのホーム ディレクトリ パス間で一意にするには、共有名に/`%w` または ``%u`` 変数のいずれかを含める必要があります。共有名には ``%d`` と/`%w` 変数の両方を含めること (例：`%d/%w`) も、固定部分と可変部分を含めることもできます (例：`home_/%w`) 。

- 共有パス

これは、共有によって定義され、共有名のいずれかに関連付けられた相対パスです。この相対パスが各検索パスに追加され、SVMのルートからユーザーのホーム ディレクトリ パス全体が生成されます。このパスは、静的 (例：`home`)、動的 (例：`%w`)、または静的と動的の両方の組み合わせ (例：`eng/%w`) のいずれかになります。

- 検索パス

これは、指定した SVM のルートからの絶対パスのセットで、ONTAP がホーム ディレクトリを検索する際の指示となります。``vserver cifs home-directory search-path add`` コマンドを使用して、1つ以上の検索パスを指定できます。複数の検索パスを指定した場合、ONTAP は有効なパスが見つかるまで、指定された順序でパスを試行します。["ONTAPコマンド リファレンス"](#)の ``vserver cifs home-directory search-path add`` の詳細をご覧ください。

- ディレクトリ

これは、ユーザーのために作成するホーム ディレクトリです。ディレクトリ名は通常、ユーザー名です。ホーム ディレクトリは、検索パスで定義されているディレクトリのいずれかに作成する必要があります。

例として、次の設定を考えてみましょう。

- ユーザー：John Smith
- ユーザー ドメイン：acme
- ユーザー名：jsmith
- SVM名：vs1
- ホーム ディレクトリ共有名 #1：home_ %w - 共有パス： %w
- ホーム ディレクトリ共有名 #2： %w - 共有パス： %d/%w
- 検索パス #1： /vol0home/home
- 検索パス #2： /vol1home/home
- 検索パス #3： /vol2home/home
- ホーム ディレクトリ： /vol1home/home/jsmith

シナリオ1：ユーザーは `\\vs1\home_jsmith` に接続します。これは最初のホーム ディレクトリ共有名と一致し、相対パス `jsmith` を生成します。ONTAPは、各検索パスを順にチェックすることで、`jsmith` という名前のディレクトリを検索します：

- /vol0home/home/jsmith は存在しません。検索パス #2 に進みます。
- `vol1home/home/jsmith` が存在するため、検索パス #3 はチェックされず、ユーザーはホーム ディレクトリに接続されます。

シナリオ2：ユーザーは `\\vs1\jsmith` に接続します。これは2番目のホーム ディレクトリ共有名と一致し、相対パス `acme/jsmith` を生成します。ONTAPは、各検索パスを順にチェックすることで、`acme/jsmith` という名前のディレクトリを検索します：

- /vol0home/home/acme/jsmith は存在しません。検索パス #2 に進みます。
- /vol1home/home/acme/jsmith は存在しません。検索パス #3 に進みます。
- `vol2home/home/acme/jsmith` が存在しません。ホーム ディレクトリが存在しないため、接続は失敗します。

ホーム ディレクトリ共有

ONTAP SMB ホームディレクトリ共有を追加する

SMBホーム ディレクトリ機能を使用するためには、ホーム ディレクトリ プロパティが設定された共有を少なくとも1つ追加する必要があります。

タスク概要

```
`vserver cifs share create` コマンドを使用して共有を作成するときにホームディレクトリ共有を作成することも、`vserver cifs share modify` コマンドを使用していつでも既存の共有をホームディレクトリ共有に変更することもできます。
```

ホームディレクトリ共有を作成するには、共有の作成または変更時に `-share-properties`` オプションに ``homedirectory`` 値を含める必要があります。共有名と共有パスは、ユーザーがホームディレクトリに接続する際に動的に展開される変数を使用して指定できます。パスで使用できる変数は ``%w``、`%d``、``%u`` で、それぞれ Windows ユーザー名、ドメイン、マッピングされた UNIX ユーザー名に対応します。

手順

1. ホームディレクトリ共有を追加する：`+vserver cifs share create -vserver vservice_name -share-name share_name -path path -share-properties homedirectory[,...]`

`-vserver `vserver`` 検索パスを追加する CIFS 対応のストレージ仮想マシン (SVM) を指定します。

``-share-name share-name`` ホームディレクトリの共有名を指定します。

必須変数のいずれかに加えて、共有名にリテラル文字列 `%w``、`%u``、または `%d`` のいずれかが含まれている場合は、ONTAP がリテラル文字列を変数として扱うことを防ぐために、リテラル文字列の前に `%`` (パーセント) 文字を付ける必要があります (たとえば、``%%w``)。

- 共有名には ``%w`` または ``%u`` 変数のいずれかを含める必要があります。
- 共有名には、さらに `%d`` 変数 (例: ``%d/%w``) または共有名の静的部分 (例: `home1_/%w``) を含めることができます。
- 管理者が他のユーザーのホームディレクトリに接続するために、またはユーザーが他のユーザーのホームディレクトリに接続することを許可するために共有を使用する場合、動的な共有名パターンの前にチルダ (`~``) を付ける必要があります。

```
`vserver cifs home-directory modify` は、 `-is-home-dirs-access-for-admin-enabled` オプションを `true` に設定するか、詳細オプション `-is-home-dirs-access-for-public-enabled` を `true` に設定することによって、このアクセスを有効にするために使用されます。
```

`-path path`` ホームディレクトリへの相対パスを指定します。

`-share-properties homedirectory[,...]` その共有の共有プロパティを指定します。 `homedirectory`` 値を指定する必要があります。追加の共有プロパティは、カンマ区切りのリストで指定できます。

1. ``vserver cifs share show`` コマンドを使用して、ホームディレクトリ共有が正常に追加されたことを確認します。

例

次のコマンドは、`%w`` という名前のホームディレクトリ共有を作成します。 ``oplocks``、`browsable``、および `changenotify`` 共有プロパティは、``homedirectory`` 共有プロパティの設定に加えて設定されます。



この例で表示されているのは、SVMの共有の出力の一部です。出力は省略されています。

```

cluster1::> vservers cifs share create -vservers vs1 -share-name %w -path %w
-share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory

vs1::> vservers cifs share show -vservers vs1
Vserver      Share      Path      Properties      Comment      ACL
-----
vs1          %w        %w        oplocks         -            Everyone / Full
Control
                                     browsable
                                     changenotify
                                     homedirectory

```

関連情報

- [ホームディレクトリの検索パスを追加する](#)
- [サーバー上で自動ノード紹介を使用するための要件とガイドライン](#)
- [ユーザーのホームディレクトリへのアクセシビリティを管理する](#)

ホーム ディレクトリ共有に固有のONTAP SMBユーザ名要件について説明します

ホームディレクトリ共有を作成する際は、`%w` (Windowsユーザ名) または `%u` (UNIXユーザ名) 変数を使用して動的に共有を生成する際に、一意のユーザ名を割り当てるように注意してください。共有名はユーザ名にマッピングされます。

静的共有の名前とユーザの名前が同じ場合、次の2つの問題が発生する可能性があります：

- ユーザーが ``net view`` コマンドを使用してクラスター上の共有を一覧表示すると、同じユーザー名を持つ2つの共有が表示されます。
- ユーザーがその共有名に接続すると、常に静的共有に接続され、同じ名前のホーム ディレクトリ共有にアクセスできなくなります。

例えば、「administrator」という名前の共有があり、Windowsユーザ名が「administrator」としてします。ホーム ディレクトリ共有を作成してその共有に接続すると、「administrator」というホーム ディレクトリ共有ではなく、静的共有「administrator」に接続されます。

重複した共有名の問題は、次のいずれかの手順で解決できます：

- 静的共有の名前を変更して、ユーザのホーム ディレクトリ共有と競合しないようにします。
- 静的共有名と競合しないように、ユーザに新しいユーザ名を付与します。
- `%w`` パラメータを使用する代わりに、「``home``」などの静的な名前でもCIFSホーム ディレクトリ共有を作成して、共有名との競合を避けます。

アップグレード後に静的 **ONTAP SMB** ホームディレクトリ共有名がどうなるかについて説明します。

ホーム ディレクトリの共有名には、``%w`` または ``%u`` 動的変数のいずれかを含める必要

があります。新しい要件を含む ONTAP のバージョンにアップグレードした後、既存の静的ホーム ディレクトリの共有名がどうなるかを知っておく必要があります。

ホームディレクトリ設定に静的共有名が含まれている場合、ONTAPにアップグレードしても、静的ホームディレクトリ共有名は変更されず、引き続き有効です。ただし、`%w`または`%u`変数のいずれかを含まない新しいホームディレクトリ共有を作成することはできません。

これらの変数のいずれかをユーザーのホーム ディレクトリ共有名に含めることを必須とすることで、ホームディレクトリ設定全体ですべての共有名が一意になります。必要に応じて、静的ホーム ディレクトリ共有名を`%w`または`%u`変数のいずれかを含む名前に変更することもできます。

ONTAP SMBホームディレクトリの検索パスを追加する

ONTAPのSMBホーム ディレクトリを使用する場合は、ホーム ディレクトリ検索パスを少なくとも1つ追加する必要があります。

タスク概要

```
`vserver cifs home-directory search-path  
add` コマンドを使用してホームディレクトリの検索パスを追加できます。
```

```
`vserver cifs home-directory search-path add` コマンドは、コマンド実行中に ` -  
path` オプションで指定されたパスをチェックします。指定されたパスが存在しない場合、コマン  
ドは続行するかどうかを確認するメッセージを生成します。 `y` または `n` を選択します。  
`y` を選択して続行すると、ONTAPは検索パスを作成します。ただし、ホームディレクトリ設定で検  
索パスを使用する前に、ディレクトリ構造を作成する必要があります。続行しないことを選択した  
場合、コマンドは失敗し、検索パスは作成されません。その後、パスのディレクトリ構造を作成し  
、 `vserver cifs home-directory search-path add` コマンドを再実行できます。
```

手順

1. ホームディレクトリの検索パスを追加します： `vserver cifs home-directory search-path add -vserver vs1 -path /home1`
2. `vserver cifs home-directory search-path show` コマンドを使用して検索パスが正常に追加されたことを確認します。`

例

次の例では、パス `/home1` を SVM vs1 のホーム ディレクトリ設定に追加します。

```
cluster::> vsriver cifs home-directory search-path add -vsriver vs1 -path
/home1

vs1::> vsriver cifs home-directory search-path show
Vserver      Position Path
-----
vs1          1      /home1
```

次の例では、パス `/home2` を SVM vs1 のホームディレクトリ設定に追加しようとしています。パスが存在しません。続行しないことが選択されました。

```
cluster::> vsriver cifs home-directory search-path add -vsriver vs1 -path
/home2
Warning: The specified path "/home2" does not exist in the namespace
        belonging to Vserver "vs1".
Do you want to continue? {y|n}: n
```

関連情報

[ホームディレクトリ共有を追加する](#)

%wおよび%d変数を使用してONTAP SMBホーム ディレクトリ構成を作成します

`%w`変数と `%d`変数を使用して、ホームディレクトリ設定を作成できます。ユーザは、動的に作成された共有を使用して、ホーム共有に接続できます。

手順

1. ユーザーのホームディレクトリを格納する qtree を作成します。 `volume qtree create -vsriver vsriver_name -qtree-path qtree_path`
2. qtreeが正しいセキュリティスタイルを使用していることを確認します。 `volume qtree show`
3. qtreeが目的のセキュリティスタイルを使用していない場合は、`volume qtree security` コマンドを使用してセキュリティスタイルを変更します。
4. ホームディレクトリ共有を追加します： `vsriver cifs share create -vsriver vsriver -share-name %w -path %d/%w -share-properties homedirectory\[,...\]`

`-vsriver `vsriver`` 検索パスを追加する CIFS 対応のストレージ仮想マシン (SVM) を指定します。

`-share-name `%w`` ホームディレクトリの共有名を指定します。ONTAPは、各ユーザがホームディレクトリに接続するたびに共有名を動的に作成します。共有名は `_windows_user_name_` という形式になります。

`-path `%d/%w`` ホームディレクトリへの相対パスを指定します。相対パスは各ユーザがホームディレク

トリに接続するたびに動的に作成され、`_domain/windows_user_name_`という形式になります。

`-share-properties homedirectory[,...]+` その共有の共有プロパティを指定します。
`homedirectory` 値を指定する必要があります。追加の共有プロパティは、カンマ区切りのリストで指定できます。

5. `\vserver cifs share show` コマンドを使用して、共有が目的の構成になっていることを確認します。
6. ホームディレクトリの検索パスを追加します：`vserver cifs home-directory search-path add -vserver vs1 -path path`

`-vserver vs1` 検索パスを追加するCIFS対応SVMを指定します。

`-path path` 検索パスへの絶対ディレクトリパスを指定します。

7. `\vserver cifs home-directory search-path show` コマンドを使用して検索パスが正常に追加されたことを確認します。
8. ユーザにホームディレクトリがある場合は、ホームディレクトリを含むように指定したqtreeまたはボリュームに対応するディレクトリを作成します。

たとえば、`/vol/vol1/users` のパスでqtreeを作成し、ディレクトリを作成するユーザー名が`mydomain\user1`である場合、次のパスでディレクトリを作成します：

```
\vol/vol1/users/mydomain/user1
```

「home1」という名前のボリュームを`/home1`にマウントした場合、次のパスを持つディレクトリが作成されます：`\home1/mydomain/user1`

9. ドライブをマッピングするか、UNCパスを使用して、ユーザがホームディレクトリ共有に正常に接続できることを確認します。

たとえば、ユーザー `mydomain\user1` が手順 8 で作成された SVM `vs1` 上のディレクトリに接続する場合、`user1` は UNC パス `\\vs1\user1` を使用して接続します。

例

次の例の各コマンドは、以下の内容でホームディレクトリ設定を作成します。

- 共有名は`%w`です。
- 相対ホームディレクトリパスは`%d/%w`です。
- ホームディレクトリを格納するために使用される検索パス `\home1` は、NTFSセキュリティスタイルで構成されたボリュームです。
- 設定はSVM `vs1`上に作成されます。

ユーザがWindowsホストからホームディレクトリにアクセスする場合には、このようなホームディレクトリ設定を使用できます。また、ユーザがWindowsホストとUNIXホストからホームディレクトリにアクセスし、ファイルシステム管理者がWindowsベースのユーザおよびグループを使用してファイルシステムへのアクセスを制御する場合にも、このような設定を使用できます。

```

cluster::> vserver cifs share create -vserver vs1 -share-name %w -path
%d/%w -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory

cluster::> vserver cifs share show -vserver vs1 -share-name %w

          Vserver: vs1
          Share: %w
CIFS Server NetBIOS Name: VS1
          Path: %d/%w
Share Properties: oplocks
                  browsable
                  changenotify
                  homedirectory

Symmlink Properties: enable
File Mode Creation Mask: -
Directory Mode Creation Mask: -
Share Comment: -
          Share ACL: Everyone / Full Control
File Attribute Cache Lifetime: -
          Volume Name: -
          Offline Files: manual
Vscan File-Operations Profile: standard

cluster::> vserver cifs home-directory search-path add -vserver vs1 -path
/home1

cluster::> vserver cifs home-directory search-path show
Vserver      Position Path
-----
vs1          1      /home1

```

関連情報

- [%u変数を使用したホームディレクトリ設定](#)
- [追加のホームディレクトリ設定について学ぶ](#)
- [ユーザーのホームディレクトリパスに関する情報を表示します](#)

%u変数を使用してONTAP SMBホームディレクトリを構成する

` %w `変数を使用して共有名を指定するホームディレクトリ設定を作成できますが、
 ` %u `変数を使用してホームディレクトリ共有への相対パスを指定します。これにより、ユーザーは
 ホームディレクトリの実際の名前やパスを意識することなく、Windowsユーザー名を使用して動的
 に作成された共有を使用してホーム共有に接続できます。

手順

1. ユーザーのホームディレクトリを格納する qtree を作成します。 `volume qtree create -vserver vserver_name -qtree-path qtree_path`
2. qtreeが正しいセキュリティスタイルを使用していることを確認します。 `volume qtree show`
3. qtreeが目的のセキュリティスタイルを使用していない場合は、`volume qtree security` コマンドを使用してセキュリティスタイルを変更します。
4. ホームディレクトリ共有を追加します： `vserver cifs share create -vserver vserver -share-name %w -path %u -share-properties homedirectory ,...]`

`-vserver`vserver`` 検索パスを追加する CIFS 対応のストレージ仮想マシン (SVM) を指定します。

`-share-name`%w`` ホームディレクトリの共有名を指定します。共有名は各ユーザーがホームディレクトリに接続するたびに動的に作成され、`_windows_user_name_` という形式になります。



``-share-name`` オプションに ``%u`` 変数を使用することもできます。これにより、マッピングされた UNIX ユーザー名を使用した相対共有パスが作成されます。

`-path`%u`` ホームディレクトリへの相対パスを指定します。相対パスは各ユーザーがホームディレクトリに接続するたびに動的に作成され、`_mapped_UNIX_user_name_` という形式になります。



このオプションの値には静的要素も含めることができます。例えば、`eng/%u`。

`-share-properties homedirectory\[, ... \]` はその共有の共有プロパティを指定します。`homedirectory` 値を指定する必要があります。追加の共有プロパティは、カンマ区切りのリストで指定できます。

5. ``vserver cifs share show`` コマンドを使用して、共有が目的の構成になっていることを確認します。
6. ホームディレクトリの検索パスを追加します： `vserver cifs home-directory search-path add -vserver vserver -path path`

`-vserver`vserver`` 検索パスを追加する CIFS 対応 SVM を指定します。

`-path`path`` 検索パスへの絶対ディレクトリパスを指定します。

7. ``vserver cifs home-directory search-path show`` コマンドを使用して検索パスが正常に追加されたことを確認します。
8. UNIX ユーザーが存在しない場合は、 `vserver services unix-user create` コマンドを使用して UNIX ユーザーを作成します。



ユーザをマッピングするには、Windows ユーザ名のマッピング先となる UNIX ユーザ名があらかじめ存在する必要があります。

9. 次のコマンドを使用して、Windows ユーザーから UNIX ユーザーへの名前マッピングを作成します：
`vserver name-mapping create -vserver vserver_name -direction win-unix -priority integer -pattern windows_user_name -replacement unix_user_name`



WindowsユーザをUNIXユーザにマッピングする名前 マッピングがすでに存在する場合は、このマッピング手順を実行する必要はありません。

Windowsユーザ名は対応するUNIXユーザ名にマッピングされます。Windowsユーザは、ホーム ディレクトリ共有に接続すると、Windowsユーザ名に対応する共有名を使用して動的に作成されたホーム ディレクトリに接続することになります。その際、ディレクトリ名がUNIXユーザ名に対応していることはユーザにはわかりません。

10. ユーザにホーム ディレクトリがある場合は、ホーム ディレクトリを含むように指定したqtreeまたはボリュームに対応するディレクトリを作成します。

たとえば、`/vol/vol1/users``のパスで `qtree` を作成し、ディレクトリを作成するユーザーのマップされた UNIX ユーザー名が `"unixuser1"` である場合、次のパスでディレクトリを作成します：

```
`/vol/vol1/users/unixuser1
```

「home1」という名前のボリュームを `/home1`` にマウントした場合、次のパスを持つディレクトリが作成されます：``/home1/unixuser1`

11. ドライブをマッピングするか、UNCパスを使用して、ユーザがホーム ディレクトリ共有に正常に接続できることを確認します。

たとえば、ユーザー `mydomain\user1` が UNIX ユーザー `unixuser1` にマッピングされ、手順 10 で作成された SVM `vs1` 上のディレクトリに接続する場合、`user1` は UNC パス `\\vs1\user1`` を使用して接続します。

例

次の例の各コマンドは、以下の内容でホーム ディレクトリ設定を作成します。

- 共有名は%wです。
- 相対ホーム ディレクトリ パスは%uです。
- ホーム ディレクトリを格納するために使用される検索パス ``/home1`` は、UNIX セキュリティ スタイルで構成されたボリュームです。
- 設定はSVM `vs1`上に作成されます。

ユーザがWindowsホストから、またはWindowsホストとUNIXホストからホーム ディレクトリにアクセスし、ファイルシステム管理者がUNIXベースのユーザおよびグループを使用してファイルシステムへのアクセスを制御する場合には、このようなホーム ディレクトリ設定を使用できます。

```

cluster::> vserver cifs share create -vserver vs1 -share-name %w -path %u
-share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory

cluster::> vserver cifs share show -vserver vs1 -share-name %u

          Vserver: vs1
          Share: %w
CIFS Server NetBIOS Name: VS1
          Path: %u
    Share Properties: oplocks
                     browsable
                     changenotify
                     homedirectory
    Symlink Properties: enable
    File Mode Creation Mask: -
    Directory Mode Creation Mask: -
          Share Comment: -
          Share ACL: Everyone / Full Control
File Attribute Cache Lifetime: -
          Volume Name: -
          Offline Files: manual
Vscan File-Operations Profile: standard

cluster::> vserver cifs home-directory search-path add -vserver vs1 -path
/home1

cluster::> vserver cifs home-directory search-path show -vserver vs1
Vserver      Position Path
-----
vs1          1      /home1

cluster::> vserver name-mapping create -vserver vs1 -direction win-unix
-position 5 -pattern user1 -replacement unixuser1

cluster::> vserver name-mapping show -pattern user1
Vserver      Direction Position
-----
vs1          win-unix  5      Pattern: user1
                               Replacement: unixuser1

```

関連情報

- [%w および %d 変数を使用してホームディレクトリ構成を作成します](#)
- [追加のホームディレクトリ設定について学ぶ](#)
- [ユーザーのホームディレクトリパスに関する情報を表示します](#)

追加のONTAP SMBホームディレクトリ構成について学習します

`%w`、`%d`、および`%u`変数を使用して追加のホームディレクトリ構成を作成し、ニーズに合わせてホームディレクトリ構成をカスタマイズすることができます。

共有名と検索パスに変数と静的文字列を組み合わせることで、様々なホームディレクトリ設定を作成できます。次の表は、様々なホームディレクトリ設定の作成方法を示す例です（:）

`/vol1/user`にホームディレクトリが含まれている場合に作成されるパス...	共有コマンド...
`\\vs1\~win_username`ユーザーを誘導する共有パスを作成するには `/vol1/user/win_username`	<pre>vserver cifs share create -share-name ~%w -path %w -share-properties oplocks,browsable,change notify,homedirectory</pre>
`\\vs1\win_username`ユーザーを誘導する共有パスを作成するには `/vol1/user/domain/win_username`	<pre>vserver cifs share create -share-name %w -path %d/%w -share-properties oplocks,browsable,change notify,homedirectory</pre>
`\\vs1\win_username`ユーザーを誘導する共有パスを作成するには `/vol1/user/unix_username`	<pre>vserver cifs share create -share-name %w -path %u -share-properties oplocks,browsable,change notify,homedirectory</pre>
`\\vs1\unix_username`ユーザーを誘導する共有パスを作成するには `/vol1/user/unix_username`	<pre>vserver cifs share create -share-name %u -path %u -share-properties oplocks,browsable,change notify,homedirectory</pre>

SMB検索パスを管理するためのONTAPコマンド

ONTAPには、SMBホームディレクトリ設定の検索パスを管理するためのコマンドが用意されています。たとえば、検索パスの追加、削除、および関連する情報の表示を行うためのコマンドがあります。また、検索パスの順序を変更するためのコマンドもあります。

状況	使用するコマンド
検索パスを追加する	<code>vserver cifs home-directory search-path add</code>
検索パスを表示する	<code>vserver cifs home-directory search-path show</code>
検索パスの順序を変更する	<code>vserver cifs home-directory search-path reorder</code>
検索パスを削除する	<code>vserver cifs home-directory search-path remove</code>

``vserver cifs home-directory search-path``
 の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/search.html?q=vserver+cifs+home-directory+search-path](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/search.html?q=vserver+cifs+home-directory+search-path)["ONTAPコマンドリファレンス"]をご覧ください。

ONTAP SMB ユーザのホーム ディレクトリ パスに関する情報を表示します

Storage Virtual Machine (SVM) 上のSMBユーザのホーム ディレクトリ パスを表示できます。複数のCIFSホーム ディレクトリ パスが設定されている場合に、ユーザのホーム ディレクトリが含まれるパスを確認できます。

手順

1. ``vserver cifs home-directory show-user`` コマンドを使用してホーム ディレクトリ パスを表示します。

```
vserver cifs home-directory show-user -vserver vs1 -username user1
```

Vserver	User	Home Dir Path
vs1	user1	/home/user1

関連情報

[ユーザーのホームディレクトリへのアクセシビリティを管理する](#)

ONTAP SMBユーザ ホーム ディレクトリへのアクセスを管理する

デフォルトでは、ユーザのホーム ディレクトリにアクセスできるのは、そのユーザのみ

です。共有の動的名の前にチルダ (~) が付いている共有では、Windows管理者または他のユーザ（パブリック アクセス）によるユーザのホーム ディレクトリへのアクセスを有効または無効にできます。

開始する前に

ストレージ仮想マシン（SVM）上のホームディレクトリ共有には、先頭にチルダ (~) が付いた動的な共有名を設定する必要があります。以下の例は、共有名の命名要件を示しています：

ホーム ディレクトリの共有名	共有に接続するコマンドの例
~%d~%w	net use * \\IPAddress\~domain~user/u:credentials
~%w	net use * \\IPAddress\~user/u:credentials
~abc~%w	net use * \\IPAddress\abc~user/u:credentials

手順

1. 適切な処理を実行します。

ユーザのホームディレクトリへのアクセスを有効化または無効化する対象	入力するコマンド
Windows管理者	<code>`vserver cifs home-directory modify -vserver vserver_name -is-home-dirs-access-for-admin -enabled {true false}`</code> デフォルトは `true` です。
任意のユーザ（パブリック アクセス）	<ol style="list-style-type: none"> a. 権限レベルを詳細に設定します：<code>+ set -privilege advanced</code> b. アクセスを有効または無効にする：<code>`vserver cifs home-directory modify -vserver vserver_name -is-home-dirs-access-for-public -enabled {true</code>

次の例では、ユーザーのホームディレクトリへのパブリックアクセスを有効にします。`+ set -privilege advanced+ vserver cifs home-directory modify -vserver vs1 -is-home-dirs-access-for-public-enabled true+set -privilege admin`

関連情報

[ユーザーのホームディレクトリパスに関する情報を表示します](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。